

ミヤコカナヘビの概要

1. 種名 (学名)

カナヘビ科 ミヤコカナヘビ
(*Takydromus toyamai*)

2. 環境省レッドリストランク

絶滅危惧 I A類 (CR) 2020

3. 種の特徴

全長は雄で29cm、雌で27cmに達し、その75%程度を尾が占める。頭胴長は雌雄ともに6.5cmに達する。頭部を含め非常に細身の体型をしており、体はほぼ一様に鮮やかな緑色だが、四肢は少なくとも先端部が褐色ないし赤褐色。幼体では尾も褐色。成体でも腹側面から腹面にかけて次第に黄色味が強くなる。

森林や藪を背後に抱えた草地に生息するが、草原や農耕地、住宅地周辺の空き地のような環境でも見られることがある。昆虫類・クモ類などを餌とする。交尾期間は少なくとも3月中旬～6月中旬。雌は草の根元や浅い土中に2～3個の卵を年に何回か産み、1ヶ月ほどで孵化する。



4. 分布域

沖縄県宮古島市 (宮古島、池間島、伊良部島、大神島等)

5. 存続を脅かす要因

開発、農薬散布、外来種 (イタチ、インドクジャク等) による捕食、ペット目的での採集・乱獲

6. その他

- ・宮古島市自然環境保全条例における保全種に指定され、捕獲等が禁止されている。また、沖縄県文化財保護条例における沖縄県の天然記念物に指定されている。
- ・宮古島では島内に広く分布することが確認されているが、生息状況が十分把握されていない地域があるとともに、種内で遺伝的に分化しており保全単位を検討する必要があることなどが課題となっている。
- ・国内希少野生動植物種の指定前にはペット業界での流通が確認されており、現在も愛好家の元で飼育されている可能性があるほか、海外にも流出したという情報がある。
- ・環境省と (公社) 日本動物園水族館協会との協定に基づき、平成30年度から個人所有の個体 (由来不明) を譲り受け、飼育下繁殖に関する技術開発が実施されているほか、令和2年度からは野生個体を創始個体とした飼育繁殖に着手するなど、生息域外保全の取組を開始している。
- ・令和2年11月時点で、札幌市円山動物園、東京都恩賜上野動物園の2園館で飼育されており、累代飼育に成功している。